

特養「新清快園」(東京都西多摩郡)

中庭から屋外へホースを使って排水する

特別養護老人ホーム新清快園(東京都西多摩郡、田村修施設長)は「水防・水害・避難計画対策マニュアル」と「洪水(内水時)・土砂災害等の避難確保計画」を策定している。浸水被害を最小限に抑えるため排水ポンプの活用や連絡体制の取り方を明記し、災害時の迅速な行動を実現する。

アルに沿ったBCPを立てる話す。

そこで小倉さんは「水防・



一連載⑯

排水ポンプが防災の要 排水対策マニュアル独自に作成

れ大規模な浸水が発生するかも知れないと考えました」とた。合わせて職員誰もが使え

こで2台のポンプを購入し、このほど写真付きで示した。

内への浸水対策とともに必須です」と強調する。

緊急時の初動は 情報収集班が力ギ

また、同園は町から要配慮者を受け入れる2次避難所に指定されている。

新清快園では2階の共有スペースを開設することで施設

全体で利用者120人、スタッフ約80人に加え、要援護者6家族30人を受け入れることが可能。「ベッドやマットレスパーテーションを備え少しでも安心して生活できる環境を整備しています」と総務課長の山崎昌也さんは話す。

同時に移設先の土地の水は、道路が冠水している光景を何度も目にしていました。幸い、被災はなかったのですが、

排水ポンプの運用法明記

「防水のためには排水設備がます必要」と小倉さん。それを作成した。

「排水ポンプの運用法明記

るよう、「水防・水害・避難計画対策マニュアル」に排水ポンプの詳しい使い方を明記。どこに設置するのか、ホースはどうやって排水する

の通用口付近に設置する。同氏は「緊急時に利用者を移動させるには応援職員の手が必要です。その職員が駆け付ける場合は施設長と防火管理者が避難準備を行い、「避難告白」が発令された場合は職員全員が関係行政への連絡や避難誘導の対応をする。



ラジオなどを通じて、かけ崩れや冠水などの前兆現象の把握や被害状況などを収集し指揮班と避難誘導班に報告する。

「指揮班」は情報収集班からの報告を受け、避難準備やがけ崩れや冠水などの前兆現象を発見した場合の入所者の避難誘導をする。

「排水ポンプの運用法明記

のなかで写真付きで示した。

同施設では1台は中庭付近に設置する。増水してきた際に中庭から外の駐車場まで

ホースを伸ばして排水する。

マニュアルには垂直避難のタイミングも明記。排水が間に合わず中庭の地面から約10cmを超えた時点での入所者を2階の地域交流スペースに避難させる。10cmの基準はテープとビニールひもでも示しておらず、1目でわかる。

また、「洪水(内水時)・土砂災害等の避難確保計画」に防災体制や避難誘導、訓練の実施について記載した。

体制の項目には①指揮班②情報収集班③避難誘導班のそれぞれの役割が記されて

東京都西部・日の出町に開所した特養「新清快園」は3階建て120床の特別養護老人ホームで、1階と2階が入所スペース。5年前に同町平井地区から移設増床した際、東京都社会福祉協議会のマニ



要配慮者受入れ訓練の様子 机でプライバシーを保護

2台目は職員が出勤した際

「情報収集班」はテレビや

ラジオなどを通じて、かけ崩れや冠水などの前兆現象の把握や被害状況などを収集し指揮班と避難誘導班に報告する。

「指揮班」は情報収集班からの報告を受け、避難準備やがけ崩れや冠水などの前兆現象を発見した場合の入所者の避難誘導をする。